



建コン フォト大賞

日常生活を支える重要な
土木施設の写真

あなたのお気に入りの土木施設

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために「フォトコンテスト」を企画しました。コンテスト名は「第1回建コンフォト大賞」とし、写真撮影の対象物を道や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など私たちの日常生活を支える土木施設全般としました。

公募期間は平成21年7月10日～11月30日とし、当協会のHPやWEB上の情報提供サイトへの掲載、新聞社、会員各社の社内広報媒体などを利用してPRしました。

その結果、第1回にもかかわらず、全国の幅広い年齢層の方々から202点の応募を頂きました。

審査方法

作品の審査は、当協会の広報委員会委員（11名）が一次選定を行い、審査委員（4名）による最終審査会を経て、表彰作品を決定しました。

審査委員

審査委員長	伊藤 清忠（東京学芸大名誉教授）
審査委員	宇於崎 勝也（日本大学准教授）
	知野 泰明（日本大学准教授）
	初芝 成應（日本写真作家協会員）

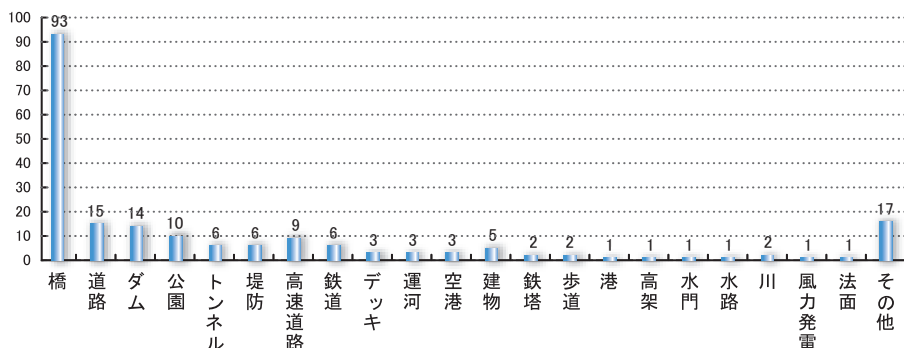
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞16点を決定しました。講評は次ページのとおりです。

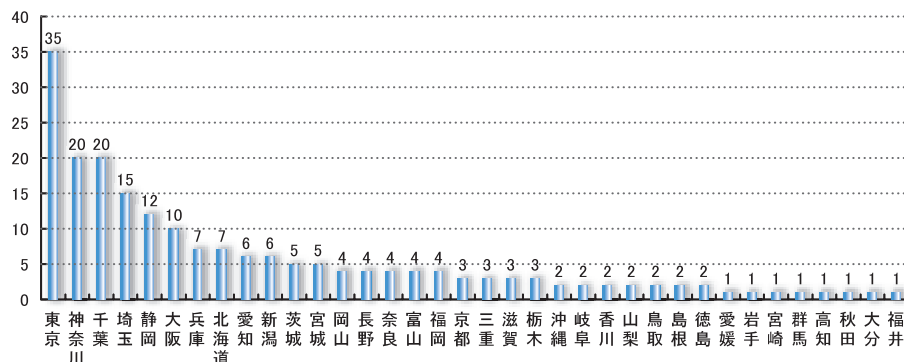
作品募集

当協会では平成22年度も作品を募集する予定です。土木施設の良さを伝える作品の応募をたくさんお待ちしております。

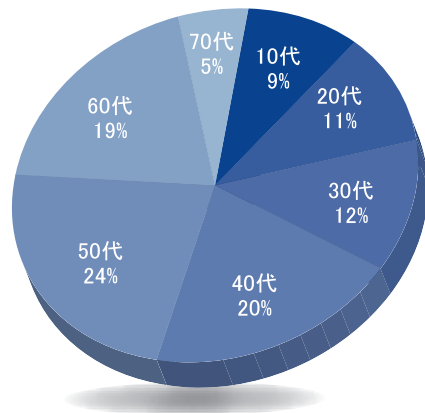
写真撮影の対象



地域別応募者数



応募者の年代



最優秀賞



02

「白い貴婦人」

福岡県 平嶋 英美

講 評

落水の表情が豊かで、そのダイナミックな流れの前で記念撮影をする家族連れが絶妙なバランスで配されています。素直に堰堤にカメラを向けて余分な構造物を入れないシンプルな構図の中に、一瞬にある美しさ、はかなさを映し出している作品です。



「富士と清流」

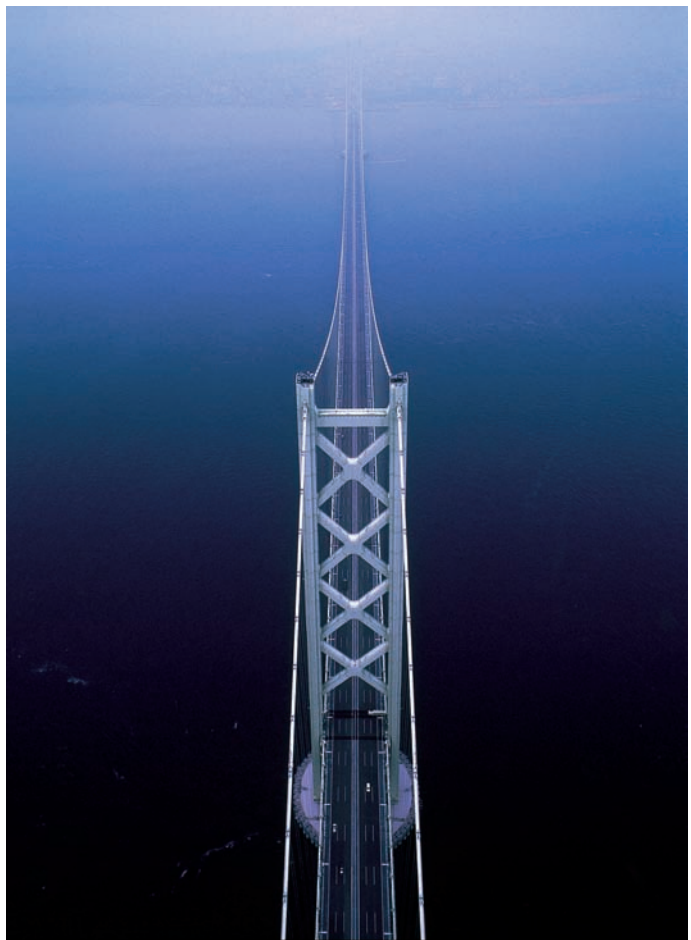
静岡県 土屋 敏彦

講 評

朝日に染まる富士と、類似形で暗い落水、様々な形に砕け散る明るい水飛沫が、それらのコントラストを際立たせ、まさにベストアングル、ベストタイミングの一枚です。

「英 姿」

大阪府 中西 清臣



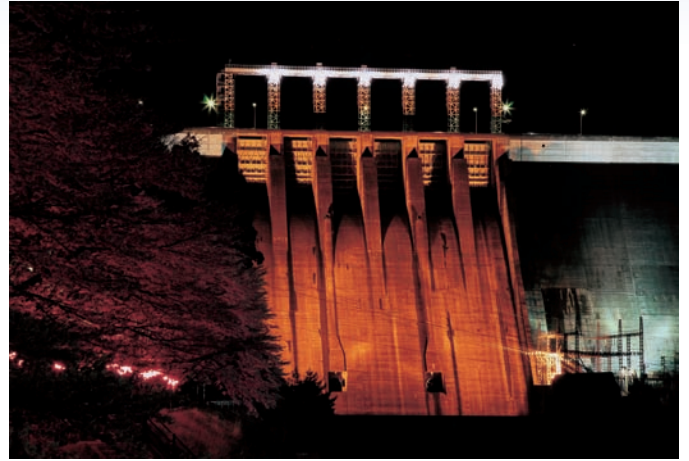
講 評

明石海峡大橋の美しさとシルエットは有名です。それを抑えた色調で表現したこの作品には一瞬、息を飲まされました。撮影のテクニックも申し分なく、几帳面で高貴な静寂さを感じさせます。

特別賞

講評

特別賞に選ばれた作品は、どれもレベルの高い撮影技術を有しており、土木構造物をうまく演出している点で撮る側の心が伝わってきました。次回に期待ができる作品として選定しました。



「夜桜添えて」

愛媛県 芝崎 静雄



「古都に通ず」

滋賀県 福田 尚人



「古代ローマの水道橋」

東京都 山田 耕治



「暮れる大橋」

兵庫県 渡邊 俊幸



「あやめ祭り」

静岡県 山田 英雄

特別賞



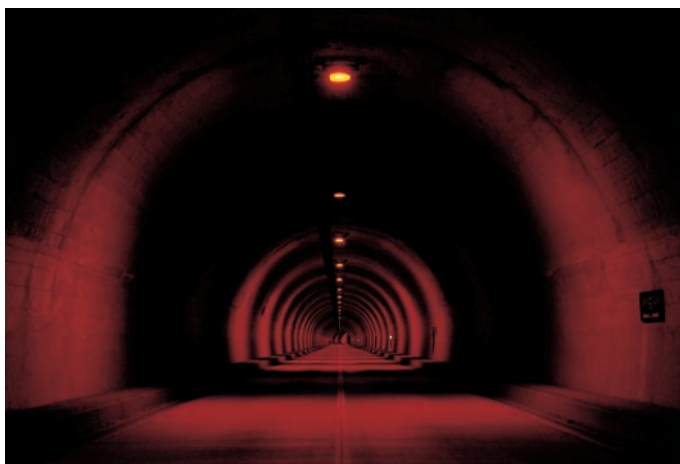
「緑の壁」

兵庫県 西宮 秀幸



「琵琶湖の優美」

京都府 木下 正治



「タイムトンネル」

富山県 井上 学



「琵琶湖大橋の夜明け」

大阪府 楠本 博



「静な公園」

神奈川県 井上 惣次郎



「終着駅より」

東京都 弓倉 純一



「幻想の木道」

愛知県 大西 宏徳



「未来への
Half-Moon」

神奈川県 南 輝明



「道の交差」

千葉県 瀬賀 未久



「土木と自然の調和の美しさ」

—琵琶湖疏水・水路閣—

埼玉県 木戸 エバ



「水路橋」

静岡県 滝井 厚